

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」南松本校		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2024年 12月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 9名
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2024年 12月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 14日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・様々な専門職(保育士・心理担当・作業療法)があり、利用児のニーズや特性に合わせたオーダーメイドでの支援が提供できるように努めている。	・積極的に児童の印象に残った出来事(優先して共有した方がよいこと)を中心にこまめに時間を見つけて連携を図れるよう工夫している。こまめにコミュニケーションが図れる雰囲気を作ることで、支援内容の引継ぎもスムーズに行えるよう意識をしている。	・専門職としての強みをより活かしつつ、情報共有をしながら各職員の資格をお互いに生かした支援の共有をしていけるよう、密に連携を図る。 ・研修に参加する等自己研鑽を重ねていけるよう心がけていく。
2	・利用児童の様子、保護者様の要望、当日の利用前のトラブル等に合わせて支援内容の変更をするなど、一人一人の課題に合わせた支援を模索し、柔軟に対応ができるよう心がけている。	・急な要望等に対しても事前に情報が把握できれば、職員間で対応方法の確認をし、空いている職員が変更に必要な教材を作成するなど工夫をして対応している。	・週に一度平日シフト休(日曜日は固定休)のため、口頭での話だけで終わることの無いよう、会社共有ツールへの共有・報告等も重ねて必要となる為、忘れないようお互いに声をかけ合う。 ・情報共有など基本ルールは決めた上で、その都度状況に合わせた報告、共有方法を柔軟に対応していく。
3	・利用児童の特性やニーズに応じた教材を検討し、作成することができる。	・支援中の出来事や共有事項等、気兼ねなく職員間で伝え合うことで、必要な支援教材を確認できている。また、不足事項や不明点があった際にはそのままにせず、同僚・先輩職員・管理者へ確認をすることを意識している。	・一人一人に合った支援を心がけながらも、効率よく支援業務ができるようどの利用児にも使用できる共通の教材作りをする等取り組んでいく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・支援業務以外の業務等(周知活動・研修・支援者会議・記録作成ほか)を円滑に把握、実行できるように必要があると思われる。	・予定されている業務が年・月・週・日単位で違ったり、イレギュラー業務に対して、その都度確認が必要となっている。	・提出期限、開催期限等のある業務を優先に、年、月、週、日単位でやるべき業務を把握、確認ができるよう事業所内会議をこまめに設定することが必要。
2	・「きらり」で長く勤務している職員や専門職からのアプローチの共有力を高めていく。	・「きらり」での支援の中から得たスキルや専門職からの専門的なアプローチ等々を共有する時間をもってきたが、より深めていく必要を感じている。	・「きらり」での支援の中から得たスキルや専門職からの専門的なアプローチ等々を共有する機会を定期的にもっていく。
3	・今後も十分な支援提供を行うための教材や追加備品の購入や検討が必要だと思われる。	・児童発達支援の利用児童が増えてきた。年齢も1歳～6歳までと幅広くなってきており、児童発達支援に必要な教材や備品購入が今後も都度検討。	・日々の業務の中で、必要な教材や備品購入、又は会社内部研修を受けることで児童発達支援に必要な自己研鑽など今後も質の高い支援提供に努めていきたい。

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どもサポート教室「きらり」南松本校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 11名

回収数 9名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	5	3	1	0		・支援数、時間帯によってはスペース確保が難しくなることがあるため、支援状況が変わった場合は、必ず職員間で確認をしていきたいと思ます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	7	2	0	0	・職員数が増えたら、一日の受け入れ人数が増えるため、ありがたいです。	・貴重なご意見ありがとうございます。今後も利用児童の多い日にも万全を期して対応できるよう職員人数を調整したり、求人募集検討をしていきます。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	5	1	2	1	・建物の階段に手すりはあるが、急で危ない。	・ご意見ありがとうございます。テナントの共用階段であるため、可能な範囲で手立てを検討したいと思います。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6	2	1	0		・今後も感染防止のための消毒や支援を行う上で環境を検討し、業務にあたりたいと思ます。
適切な支援の提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7	2	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8	0	0	1		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思ますか。	8	1	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思ますか。	8	0	0	1		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思ますか。	9	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思ますか。	8	0	0	1		
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	3	4	2	0		・利用者様のご意見をしっかりと伺ったり、近隣事業所との連携を図ったりしながら機会の検討をしていきます。
保護	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9	0	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	1	1	2		・今後もご案内ができる研修等があった際には、お知らせさせていただきます。よろしくお願いたします。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思ますか。	7	2	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	1	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思ますか。	8	0	0	1		

者 へ の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	3	4	1	・利用時間帯が違い、他の保護者の方とあまり会わないので、連携は難しいのではないかと感じる。	・貴重なご意見ありがとうございます。 なるべく多くの保護者様の都合のつく日に開催できるよう努め、日頃の悩みや困りごとを共有できる時間がとれればと思います。その際はどうぞよろしく願っています。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6	2	1	0		・保護者様のお気持ちや状況を伺いながら、可能な限り当日でも対応ができるよう今後も心がけていきます。難しい場合でも保護者様の都合をご確認しながら、後日対応をさせていただきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4	1	2	2		・行事、防災訓練については、それぞれ月に一度発信をさせていただいております。その他必要な発信もSNS、おたよりとして今後も発信ができるよう努めたいと思います。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8	1	0	0		
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6	2	0	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3	1	0	5	・避難訓練をしているかわからない。	・月1回避難訓練を実施しております。出入口付近にポスターを掲示しておりますので、掲示箇所がよりわかりやすい工夫をしたいと思います。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	1	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	1	0	0		
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	9	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	9	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	8	1	0	0		

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	こどもサポート教室「きらり」南松本校				公表日	2025年 2月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	・十分なパーテーションの数、十分な椅子や机の数になっていると感じる。	・支援室の備品がだいぶ増えてきたため整理をし、今後も過ごしやすい環境設定に努める。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	・利用が多い曜日には出勤職員を増やしたり、職員の公休が重なりすぎないように配慮をしている。	・マンツーマンでの支援が行えるように、その日の利用人数によって配置数を調整している。今後も指定基準を順守し、職員配置をしていけるよう努める。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	・トイレの場所など視覚的に案内することができていると思う。	・建物の構造上仕方がない部分もあるが、事業所を出ると階段があるため、来所時退所時、有事の際は注意が必要と感じる。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	・静かなところで集中したいお子様、体を動かしたいお子様などそれぞれ異なるため、必要に応じてパーテーションで区切ったり机を壁向きにし刺激を少なくする等、環境設定の工夫をしている。	・今後も適切な支援環境の提供に努め、感染症予防という観点でも消毒や換気等も継続して行えるようにしていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	・支援室と事務室で2つ部屋が分かれているため、支援室での音など周囲の状況で集中できない場合は、事務室に移動し支援する等、工夫を図っている。	・事務室の支援可能スペースは1カ所なので保護者様相談対応等と重ならないよう十分留意をしていく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0	・毎日の朝礼や夕礼時や、週1回定期ミーティングを開催し、業務改善に努めている。	・当日公休職員への共有が会社共有ツールのみになってしまうことがある。口頭でも共有ができるように徹底していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	・毎年1回保護者様にご協力をいただき業務改善に努めている。	・利用者様にさらにご満足いただけるよう、ご意見をいただいた際は適宜改善に努めていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	・月の支援数など職員全体で話し合いをする時間を設けているため、主体的に業務に関わる機会になっていると感じる。	・朝礼、夕礼時や週1回の定期ミーティングだけでなく、必要に応じてその都度業務に対する課題や改善に繋げられる機会を、今後も設定していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3	・第三者による外部評価が実施された場合には、業務改善に繋げる。	・第3者評価は行っていないが、適宜行政に監査をいただきながら、今後も健全な業務や運営、改善に繋げていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1	・会社内部の定期研修機会を確保し、月に数回程度受講をしている。	・今後もすべての職員が継続的に研修参加していけるよう努める。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	・毎回の支援で出た内容やご要望については、職員間で共有を行い次の支援に取り入れられるように工夫している。また、保護者様に取り組んだ内容のものを見せながら説明することや、定期的に取り組んだプリントをお渡しするようにし、どんなことに取り組んだのかわかるように工夫している。	・前回の支援内容を引き継ぎ、次回に生かしていけるよう今後も情報共有や必要な検討を図っていく。 ・下記URLより支援プログラム掲載 <a href="https://kirari-kodomo.com/around/around-284/">https://kirari-kodomo.com/around/around-284/</a>
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	0	・支援計画更新の際にアセスメントをとったり、ニーズや課題に対する支援内容を保護者様と確認したりしている。	・保護者様の意向と、実際のお子様の様子に合わせた支援が行えるよう、今後も十分な検討を重ねながら作成をしく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	・個別支援計画作成検討会議にて、情報共有をしつつ、こどもの最善の利益を考慮した計画が作成できるよう努めている。	・基本的には毎週検討をしているが、週によっては個別支援計画検討会議の該当児童数が変化するため、検討人数を計画的に調整していけるようにしていく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	・職員間で支援計画の検討会議を行い、共通認識を持って支援を行うことができていると感じる。	・変更点や重要な部分が共通理解しやすいよう付箋を貼るなど、今後もわかりやすい計画作成に努める。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	・会社統一のアセスメントシートを基本に、関係機関や家庭、支援時の様子を共有しながら確認している。	・今後も適応状況の確認に努めたい。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	・5領域に沿って利用児童の長所、課題等や現在の進捗状況等踏まえ、支援項目を設定できるよう努めている。	・今後もご希望や状況に応じて家族支援や移行支援、地域支援・地域連携が図れるよう努めていく。

又 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	・週に1回事業所内会議を開催し、その都度活動プログラムの変更内容の検討、確認をしている。	・一日を通して、どの時間帯も利用者様がいる日があったり、公休職員が毎日いるため、必要な検討が全職員へ共有できるよう、短時間であっても頻度を増やして立案や検討を心がけている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	・保護者様よりご要望をいただいている部分に関しては、内容を固定する場合もあるが、本児の様子なども汲み取りながら臨機応変に支援を行うことができるよう工夫している。	・固定化しないよう、状況に応じてプログラムを変える配慮に努めているが、お子様の特性上、大きくプログラム変更が難しいお子様もいる。年齢によってはお子様自身に確認し主体性をもって取り組めるプログラム作りを今後も心がける。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	・個別、集団ともに共通する支援内容を項目として支援ができるよう工夫している。	・今後も個別の力が集団の中でも十分に発揮していけるよう努めていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	・朝礼にて一日の支援、業務予定を確認し特記事項についてはその都度共有、連携を図っている。	・当日朝、前日にしっかり打ち合わせや準備を行うことで、今後もスムーズに取り組めるようにしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	・夕礼にて一日の情報共有事項を確認。公休職員もいるため、情報共有ツール内で再度情報共有ができるよう工夫をしている。	・朝礼時からの変更内容を今後も口頭だけでなく、情報共有ツール内でも確認できるよう努める。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	・支援の様子や保護者様へのフィードバック対応の内容等、会社共有ツールへ記録をしている。	・文章は支援内容の記録だけでは無く、支援の引継ぎとしても大事な情報となるため、他職員が見やすく且つ必要な要点がまとめることができるよう、今後も工夫を図っていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	・個別支援計画更新の際は必ずモニタリングを行い、適切な見直しに努めている。	・計画期間（6ヵ月）ごとにモニタリングを通して面談を行い、達成度と課題を導き出し、新たな目標とともに個別支援計画を作成している。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	・会議に出席する職員は、必ず全体で会議報告内容を事前に検討をした上で出席できるように工夫している。	・今後も利用児童への理解を深め、共有し、どの職員でも対応ができるようにしていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	・支援者会議の要請があれば基本的には出席をし、予定が合わない場合は文書参加にて共有ができるよう工夫している。	・今後も各関係機関との連携を図り、支援体制を整えていけるよう努める。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	・支援者会議および関係者会議にて、支援内容等の情報共有や相互理解を図っている。	・今後も支援者会議および関係者会議にて、必要な情報共有と相互理解が図れるように努める。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	・支援者会議、関係者会議にて情報共有、相互理解に努めている。	・今後も保護者様、関係者間での要請があれば積極的に参加をしていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	3	2	・センターのみ回答の為、非該当。	・センターのみ回答の為、非該当。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	1	4	・センターのみ回答の為、非該当。	・センターのみ回答の為、非該当。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	5	0	・センターのみ回答の為、非該当。	・センターのみ回答の為、非該当。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	2	・必要に応じて地域の児童発達支援センターとの連携を図っている。	・今後も必要に応じて連携を図っていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	4		・ニーズもなく現段階では予定無いが、検討をしていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	・毎回の支援でフィードバックを行い、児童の伸びて来た力やもう少し取り組みを継続していくものなど、その都度保護者様へ伝えることができるよう努めている。	・保護者様とはフィードバック時に、毎回様子や課題について伺っているが、家族支援等状況によってはこちらからご案内ができるようにする。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	・発達支援研究所(会社内部)主催の、外部向け研修等の案内をし、参加を促している。	・保護者様より交流については望み声があるため、再開できるよう検討をしている。 ・今後も事業所内で情報共有を行い適切な情報を提供できるようにしていきたい。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	・面談や契約時、その他必要に応じて説明を丁寧にできるよう心がけている。	・今後も丁寧な説明を心がけ、保護者様から質問があった際はその都度回答ができるよう努める。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	・モニタリングやアセスメント、日々のフィードバック等、児童の様子をご家族と確認し、共通認識をもち計画作成ができるよう努めている。	・計画と一緒に確認し、どんな内容で取り組むのか、内容によってどんな所の力を伸ばしていくのかお伝えすることができるよう配慮している。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4	1	・新規、更新計画ともに保護者様へ児童発達支援計画を確認いただきながら説明、同意を得られるよう努めている。	・保護者様、職員が見てわかりやすい計画を今後も作成できるよう努める。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	・当日相談のある方は、事務室にてお話を伺いながら状況を伺うなど相談対応に努めている。	・必要に応じて家族支援等対応を継続していけるようにしたい。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	4	・定期開催はできていないが、相談内容、交流希望内容によって保護者様同士で時間を合わせて支援時間帯に交流ができるようなことは取り組んでいる。	・イベントとしてなど大々的には保護者様の交流の場を設けることは現在出来ていない状況。必要に応じて交流する場を設けるか検討していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	・当日来所しての相談依頼があっても支援の無い職員や管理者等調整をし、できる限り対応に努めている。	・今後ご相談いただく内容によって柔軟な対応ができるよう努めていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	2	・毎月開催される防災訓練、小集団活動「きらりひろば」など事業所内への掲示及び保護者様へ「ビジネスLINE」にてご案内をする等、情報発信に努めている。	・ブログ、インスタ等のSNSへの投稿頻度が少ないため、情報発信ができるよう努める。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	・鍵付き書庫での個人情報の保管、事業所外に個人情報を持ち出さない等、十分留意をしている。	・今後も個人情報の扱いについては慎重かつ厳重に対応をする。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	・視覚支援やわかりやすい伝え方等、一人一人に合わせた配慮に努めている。	・今後も適切な支援の提供に努める。
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4		・必要がある場合には、検討をしていく。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定するとともに、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	・毎月定期的に防災、防犯訓練を行い、有事の際の対応を事業所全体で確認に努めている。	・いつ発生するかわからないため、今後も緊急時に備えられるよう訓練の継続を図り、その都度改善をしていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	・毎月定期的に発生を想定した訓練を行い、有事の際の対応を事業所全体で確認に努めている。	・シフト休みの為、いつだれがその役割になっても対応ができるよう、訓練の継続を図り、必要があれば改善をしていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	・契約時にアレルギーや持病等について確認をしている。	・今後も契約児童が増えるごと、都度更新を徹底していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	2		・食事提供を行っていないため、非該当。送迎の際、利用児兄弟等から飲食の流入の可能性もある為、事前にアレルギーなどがあるか保護者に確認を行い、一覧にしてすぐに確認ができるように対応している。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	・安全計画をもとに必要な研修や訓練をしている。	・安全点検表を作成し、支援備品等の安全確認等、より意識をもって取り組めるようにしていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	・緊急連絡先や対応の流れ等、周知を心がけている。	・見やすい場所へ掲示をするなど、送迎の際にも確認いただけるよう努める。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1	・ヒヤリハット事例があった際は必ず職員間での情報共有を早急に、再発防止に努めている。	・定期的なヒヤリハット事例報告はできていないため、定期開催を図る。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	・本部主導の虐待防止、身体拘束含めた法定研修への出席、長野県内事業所での研修定期開催をする等、適切な対応に努めている。	・今後も継続して実施をしていく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0		・必要を感じた時には社内マニュアルと委員会の下、事業所内で検討会を開き、必要と判断した時には保護者様へ丁寧に説明し、合意を得て（身体拘束に係る同意書）実施と記録を行うようになっているため、今後も徹底する。